

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第7回理事会 開催日: 10月30日. 出席者: 佐野会長
他32名.

会議事項

1. 会長米国出張報告

10月13日より28日まで出張し, ASTM の総会, 各研究機関を視察してきた. ASTM の総会は18日開かれ新会長にカリフォルニア大学のパーカー教授が選出され, 金属工業の全体の趨勢の話があつた. 冶金関係の学生数が減つているとのこと, オハイオ州立大学の冶金研究室を見学したが, 学生数に対し研究設備が多いのが目立つた. AISI ではローチェ氏と会談したが, ここでも冶金関係の学生数が減つているのを問題にしていたが, 現在よい案はないとのことであつた.

2. 国際鉄鋼協会参加の件

武田副会長報告 11月11日ブリュッセルにおいて, 国際鉄鋼協会 (IISI) の創立総会が行なわれる. この会の目的は鉄鋼系の知識の交換と問題討議の場を提供し, 調査研究に当たることである. 日本からの正会員は大手6社日新製鋼である. 賛助会員として本会と日本鉄鋼連盟が推薦される. 会長はゾウル氏, 副会長はジョンストン氏.

3. 日本学術会議材料強度と破壊委員会 (分科会) 委員候補推薦の件

荒木透君 (東京大学工学部教授) を推薦することを決定.

企 画 委 員 会

第7回委員会 開催日: 10月17日. 出席者: 吉崎委員長, 他11名.

会議事項

1. 表彰奨励選考分科会報告

第14回大河内賞受賞候補を下記のとおり推薦したい.

記念生産賞 溶接による高級大径鋼管製造技術の開発
日本鋼管 鶴見製鉄所

(代表者 所長 高野広)

記念技術賞 新しい化成処理鋼板スーパーコートの開発

八幡製鉄 八幡製鉄所 技術研究所

主任研究員 米崎茂, 他

また第8回東洋レーヨン科学技術研究助成候補として下記のとおり, 順位をつけ推薦する予定.

第1位 鉄鉱石ペレットの焼成ならびに高温荷重還元特性に関する研究

東北大学選鉱製錬研究所教授 三本木貢治

助成希望額 7830000 円

第2位 溶鉱の凝固過程と非金属介在物の発生に関する研究

北海道大学理学部教授 丹羽貴知蔵, 他

助成希望額 9600000 円

送り状について配慮願う旨を記入して提出することになった.

2. 金属学会との連絡委員会の件

秋季大会後, 金属学会との連絡会において明年, 明後年の開催地はそれぞれ仙台, 広島に決定した. 仙台での期日は9月21日, 23日の予定.

3. 設備技術の共同研究により生ずる特許権などの問題の検討

協会で特許権を保有することで定款上差支えないか, 将来特許権が生じた場合の取扱いについては庶務分科会で検討することになった.

研 究 委 員 会

第7回委員会 開催日: 10月30日. 出席者: 三本木委員長, 他21名.

会議事項

1. 基礎研究会の設立について

小委員会より「共同研究会に匹敵する基礎研究会を設立し主に春秋の講演大会, シンポジウムに参画するを活動内容とする」旨提案され, 基礎研究会の組織について検討を進めることになった.

2. 大型プロジェクト研究の鉄鋼業への応用について

通産省木寺技術振興課長より大型プロジェクトについて説明を受け, 今後協会としていかに検討すべきかを次回検討することになった.

編 集 委 員 会

第5回運営委員会 開催日: 11月21日. 出席者: 荒木委員長, 他15名.

会議事項

1. 和文会誌分科会, 欧文会誌分科会, 講演大会分科会, 出版分科会の編集各分科会よりの報告

2. 委員委嘱について

昭和43年7月31日までを任期とし, 次の2氏を委嘱することに決定.

岡部俠児君 (川崎製鉄 (株) 千葉) — (欧文・講演大会)

稲垣憲利君 (八幡製鉄 (株) 本社) — (和文・欧文)

3. 講演大会運営委員会 (案) について

専務理事より説明があつた後, この案について検討された.

4. 俄論文賞選考に関する規程 (案) について事務局案が検討され, 承認された.

5. 欧文会誌分科会の英文呼称が次のように改められた.

Members of Editorial Advisory Committee

第9回和文会誌分科会 開催日: 11月14日. 出席者: 荒木主査, 他14名.

会議事項

1. 論文審査報告

2. 第54年会誌刊行計画について

普通号、春秋の講演大会概要集、論文集、あわせて14冊刊行の予定がたてられた。

3. 「鉄と鋼」第54年第1号(1月号)論文選定について

論文4件、技術資料1件、委員会報告1件、それに展望が掲載決定

4. 論文依頼について

第74回大会の座長意見を参考にし、各委員にいくつか候補をあげてもらい、勧誘することとなった。

5. 「鉄と鋼」の印刷について

活字の大きさや行間など、組み方について討議され、次回までに事務局で検討し、まとめることになった。

第8回欧文会誌分科会 開催日: 10月23日: 出席者: 橋口主査, 他13名。

会議事項

1. 役員の記載方法について

再検討の結果、運営委員会は“Committee for Editorial Policy”, 欧文会誌分科会は“Editorial Committee of Transactions ISIJ”という名称で記載することに決定、次回の運営委員会にかけることとなった。これまでより役員欄は簡素になるが、一年に一度くわしい紹介、会長、副会長の写真などものせる。

2. Transactions の寄贈先について

これまで寄贈してきた海外の大学、研究所、図書館、情報センター、国際機関には購読依頼の手紙をだす。会社には今年度で寄贈取りやめ購読勧誘の手紙をだす。

その他 論文審査報告

投稿勧誘論文について検討した。

第9回欧文会誌分科会 開催日: 11月20日。出席者: 橋口主査, 他13名。

会議事項

1. 原稿審査報告

論文2件が掲載可と決定。

2. 投稿勧誘論文2件の勧誘が決定。

3. Transactions 目次頁の会費記載について検討したが、非会員定価のみを記載し、会費は記載しないことに決定。

4. Transactions の寄贈先について

海外の行政省、アブストラクト作成機関に購読依頼の手紙を出す。現在交換しているものについては交換を続行、寄贈を受けているものを交換にするかどうかは一部次回へ持越された。

第5回講演大会分科会 開催日: 11月2日。出席者: 草川主査, 他20名。

会議事項

1. 講演大会運営委員会(仮称)について

編集委員会、共同研究会その他からの委員で構成されるこの委員会設立につき荒木委員長から説明があつた後討議され、運用の方法など種々意見が出されたが次回再検討することとなった。

2. 第74回講演大会について次のような反省があつた。

(1) 特別講演会に鉄鋼に関係のないテーマは良くないとする意見が出たが皆が聞くようにテーマは広い方が

良い。

(2) シンポジウムは時間的にも内容的にも管理がゆき届かなかつた。

(3) 一般講演はプログラム編成に再検討の必要が痛感される。

(4) 部会報告講演は内容をもつと充実してほしい。

3. 第75回講演大会講演締切りについて

締切りは原稿とも1月20日(土)とし、オフセット用原稿用紙も有料頒布することとなった。

資料委員会

第6回委員会 開催日: 10月27日。出席者: 草川委員長, 他10名。

会議事項

1. 資料室利用について

事務局より報告があり、図書貸出については欠号のおそれがあるため今後原則として中止し、閲覧していただくことに決定した。

2. 資料室だよりについて

今まで紹介されなかった Trans. B.I.S.I.について分類別件数を記載することに決つた。

次に訪ソ報告を記載する予定である。

3. 43年度予算について

43年度は現状維持の態勢をとることに決定した。

4. “鉄と鋼”索引カード分類方法について

数回に渡り討論されてきたが事務局側の要望によりU D C分類にふみきること本会議で承認された。

共同研究会

圧延理論分科会

第33回分科会 開催日: 11月14, 15日。出席者: 岡本主査, 他50名。

会議事項

第1日目は、石川島播磨重工業(株)横浜第一工場の会議室において、議題審議を行なつた。議題は、(1)変形抵抗関係、(2)熱間圧延関係、(3)冷間圧延関係、(4)製管関係で、各社から提出された資料について研究発表が行なわれた。続いて横浜第一工場の見学を行なつた。

2日目は、石川島播磨重工業(株)鶴見工場を午前中見学して本会議を終了した。なお、午後、「圧延理論と変形抵抗」の改訂版の編集委員会を開き意見の交換を行なつた。

鋼板部会

ホットストリップ分科会

第7回分科会 開催日: 11月10, 11日。出席者: 黒崎主査代理, 他49名。

会議事項

第1日目は、富士製鉄(株)広畑製鉄所において議事審議を行なつた。

議題は次のとおりである。

1. 操業度調査

2. 設備関係

(1) ロール・ショップ関係

(2) 1～5回分科会の設備関係議題の整理

3. 品質関係

(1) ロール・スケジュール作製基準

(2) 疵の名称統一

各社より提出された資料に基づき、意見の交換が行なわれた。2日目は、富士製鉄(株)広畑製鉄所のホットストリップ工場を見学してスケジュールを終了した。

コールドストリップ分科会

第6回分科会 開催日：10月27, 28日。出席者：吉田主査代理，他60名。

会議事項

第1日目午前中は、議事審議が行なわれた。議題は、(1)コイル検査ライン設備諸元、(2)操業調査表で、各社より提出された資料について説明がなされ、質疑応答が行なわれた。

1日目午後は、大同鋼板(株)尼ヶ崎工場を見学した。2日目は午前中、富士製鉄(株)名古屋製鉄所会議室にて前日に引き続いて議題審議を行ない、午後工場見学を行なつてスケジュールを終了した。

条 鋼 部 会

大 形 分 科 会

第7回分科会 開催日：10月18, 19日。出席者：中島主査他，58名。

会議事項

1. 工場操業調査表報告

本年6月～8月の各工場の作業時間、原単位調査表が報告された。

2. 材料手入の現状と問題点

鋼片の疵検査方法、疵手入方法、手入後の検査および改造計画などにつき各事業所別に報告された。

3. 誘導装置の現状と問題点

各品種別に、入口ガイド、出口ガイド、パルケンに区分し、形式、材質、寿命などにつき各事業所別に報告された。

4. 自由研究 (提出資料10)

各社1件ずつ、任意のテーマで研究発表がなされ、質疑応答が行なわれた。

5. 特別講演会

造船関係における大形形鋼の使用について、日本海事協会 賀来氏を講師に招き、特別講演会を行なつた。

中 小 形 分 科 会

第23回分科会 開催日：11月9, 10日。出席者：中西主査，他119名。

会議事項

1. 新入会委員紹介，挨拶

今回分科会より、新たに、日本砂鉄(株)の加入があり紹介、および挨拶が行なわれた。

2. 工場操業調査表報告

本年4月～6月の各工場の作業時間、原単位調査表が報告された。

3. テーマ研究会

全委員をAグループ、Bグループに2分し、Aグループ：素材手入の現状、Bグループ：ミスロール減少対策

の各テーマごとに研究報告、質疑応答がなされた。

4. 自由研究

各社より、各1件ずつ、任意のテーマで研究発表があり、種々質疑応答があつた。

調 査 部 会

第21回部会 開催日：10月11, 12日。出席者：木寺部会長，他53名。

会議事項

日本鋼管(株)福山製鉄所において開催された。

1. 製品の構内輸送工程調査のまとめ、定期交換資料トラック輸送についてのアンケート(案)、今後の開催予定(案)について話合われた。

2. 日本通運(株)輸送コンサルタント次長押谷博氏が「道路運送車両の保安基準」について欧米の現状をまじえながらの講演をされた。

3. 「鉄と鋼」の論文寄稿規定程更による部会資料の寄稿依頼と予算編成について事務局より報告があつた。

計 測 部 会

第38回部会 開催日：10月16, 17日。出席者：池上部会長，他63名。

会議事項

今回は富士製鉄(株)室蘭製鉄所にて開催され、2日目の午後には同製鉄所内転炉工場および熱延工場の見学を行なつた。

共通議題として(1)各社自動調節計の稼働実績調査、(2)保守基準の決定の2テーマについて各社資料を提出し意見の交換が行なわれた。

また自由議題として、焼結原料水分制御プロセスの解析ほか約20編の研究報告が出され討論された。

また中性子水分計に関する小委員会から経過報告があり、高炉用、焼結用水分計の両方について、標準設置法の確立を目標に検討を進める旨報告があつた。

品 質 管 理 部 会

第18回部会 開催日：10月19, 20日。出席者：辻畑部会長，他76名。

会議事項

前回に引き続き品質保証を主題とし、10月19, 20日名古屋および大同、愛知製鋼知多工場で開催された。「QCとコンピューター」「標準化と品質設計」「QC意識の徹底」の3つのサブテーマの下で19篇の報告論文を中心に終日活発なる論議が行なわれた。特に「QCとコンピューター」では、計算機の工程内設置の必要性が強調されいわゆる on-line-computer system に論議が集中した。また「QC意識の徹底」ではQCサークル活動につき詳細な点まで論議がなされた。

鉄 鋼 分 析 部 会

第21回部会 開催日：10月25日。出席者：池上部会長

他57名.

会議事項

1. 発光分光分析分科会経過報告
2. 蛍光X線分析分科会経過報告
3. ISO/TC17/SC1 国際会議報告
住友金属中研 新見敬古氏
4. 鉄鋼化学分析分科会経過報告
5. 鋼中非金属介在物分析小委員会経過報告
6. ほたる石分析小委員会経過報告

発光分光分析分科会

第11回分科会 開催日: 10月23日. 出席者: 杉山主査
他32名.

会議事項

1. 部会への報告事項の承認
2. ステンレス鋼共同実験解析結果について
ステンレス鋼共同実験のニッケル, クロム分析結果の
所内誤差, 所間誤差および誤差回帰式を再計算し G V-
200 の結果を採用することとした.
3. JIS の改訂について
現行 JIS の改訂に関するアンケート回答および実態調
査報告の集約結果について幹事より説明がありそれぞれ
JIS 改訂時の参考資料とすることになった.
また改訂原案の作成作業は各社の代表者からなる 1 委
員会を設置して行ない, その結果を分科会において審議
し最終的に決定することとした.

蛍光X線分析分科会

第12回分科会 開催日: 10月24日. 出席者: 川村主査
他35名.

会議事項

1. 前回以後の経過を主査が報告した.
(1) 共同実験のとりまとめについて
(2) JIS 化について
アンケートの結果をもちこんで JIS 原案を作成した.
協議の結果, 質問事項または意見をとり入れ小委にて第
2 次案をまとめることとした.
2. 粉体試料の今後の進め方について
主査より粉体の取り扱いについて従来の経過を説明し
た後, 討議を行なった結果本問題についての小委員会を
設置することになった.
3. 鉄鋼分析の今後の進め方について
第 8 回会議でイ) 鋳鉄, 炭素鋼および低合金鋼,
ロ) ステンレス鋼, 高速度鋼および高合金鋼, ハ) 鉄合
金の 3 つに分類してその分析方法の JIS 化を逐次進めて
行く方針を決めたが小委員会で検討しなおすことになつ
た.

鋼中非金属介在物分析小委員会

第12回小委員会 開催日: 10月17日. 出席者: 神森部
会幹事, 他10名.

会議事項

1. 第 3 回酸溶解法共同実験分析結果
炭素含有量 0.5~0.7% の各種キルド鋼の非金属介在
物の各成分の分析結果は, 温硫酸法と温硫酸法とで方
法別による差は認められず, SiO₂, Al₂O₃ に関しては安
定な結果が得られた. しかし残渣分析値から換算した酸
素量と V F 法による酸素定量値とはいずれの鋼種の場合

も差があつた.

2. 第 4 回酸溶解法共同実験分析結果

第 3 回と同様な結果を示した.

3. 今後の小委員会の運営方針

- 1) 酸法に関しては次回までに第 5 回共同実験として
高炭素クロム鋼をとり上げ早期にとりまとめる.
- 2) 本小委員会はさらに継続して鋼中の非金属介在物
の分析方法の検討を行なう.

ほたる石分析小委員会

第 3 回小委員会 開催日: 10月26日. 出席者: 神森部
会幹事, 他18名.

会議事項

提出資料を種々検討した結果, 小委員長のもとでほた
る石分析方法 JIS 原案(第 1 次)を次のように修正して整
理案を作成し, 11月30日までに各委員に配布して書面審
議の次回決定することになった.

- (1) 酢酸による分解条件を第 2 回共同実験要領の条
件に修正し, 解説に実例をあげ示す.
- (2) CaF₂ の定量法は EDTA 滴定法を本文にし,
KMnO₄ 滴定法を備考に入れる.
- (3) CaCO₃ 定量法は EDTA 滴定法とする.
- (4) CaF₂ は T.Ca を定量してチェックできること
を解説に述べ, T.Ca の定量法を記載する.
- (5) Fe, Al を定量する場合は CaCO₃ の溶液から
も回収する必要があることを解説にのべる.
- (6) 分析用試料は可及的短時間に 100 メッシュを全
通するように粉碎し, 偏折しやすいのでよく混合して平
均品位を採取するように解説に実例をあげる.

鉄鋼生産設備能力調査委員会

第 7 回委員会 開催日: 9月25日. 出席者: 沢村委員
長, 他22名.

会議事項

1. 松下製鉄設備部会長, 池田製鋼設備副部会長, 作
井庄延設備総合部会長より各部会の算定式作成の進捗状
況が報告された. 特に製鉄設備部電気鋳設備分科会を
同部会フェロアロイ分科会と合同し, 同部会フェロアロ
イ電気鋳設備分科会と改称することになった.
2. 算定式作成上の問題点について話しあわれた.

庄延設備総合部会

第 3 回部会 開催日: 9月25日. 出席者: 作井部会長
他16名.

会議事項

1. 各部会, 分科会の進行状況報告
本年 5 月開催された第 2 回庄延設備総合部会以降の各
部会 分科会の進行状況が, 報告された.
2. 連続加熱炉能力算定式小委員会報告
前回庄延設備総合部会以後, 2 回の小委員会が開かれ
連続加熱炉能力算定式の作成につき, 検討された結果が
報告された.
3. 各部会, 分科会の問題点提起および検討
各部会, 分科会で前回算定式の見直し作業を進めてゆ
くに当たり, 生じた問題点を提起していただき, 全体で
検討すべく議題としてとり上げられた.

4. 簡略式について

鋼管設備部会、および分塊設備分科会より、作成案が報告され、種々討議された。なお、他部会は、報告された算定式を検討し作成できるならば、今回の答申時に記載することになった。

5. 「鉄鋼生産設備能力算定方式」の編集について

今回の、上記算定方式の編集に当たっては、前回各分科会でまちまちであった、基本的考え方、使用記号、製本の仕方などについて、原則として、各部会単位で統一することが提案され、了承された。

鋼 板 部 会

分 塊 設 備 部 会

第3回分科会 開催日：10月12日。出席者：永江主査 他23名。

会議事項

本算定式については、前回の分科会で承認を得たので今回は主に簡略式につき討議がなされた。簡略式については今日さらに2つの試案が出され比較検討されたが、前回求めた各社の実績値に時間的ずれがあるため、新たにもう一度各社に生産実績の再アンケートを行なうことになり、次回までに幹事はその結果をまとめて、簡略式の決定を行なうことにした。

ホットストリップ設備分科会

第4回分科会 開催日：9月29日。出席者：吉田主査代理、他17名。

会議事項

前回より懸案になっていた加熱炉能力の算定方式および仕上圧延機の放出速度基準を中心に打ち合せを行なった。加熱炉能力の算定方式については、加熱炉小委員会に算定式の検討および炉中に異なる厚さのスラブが混在する場合の算定の方法について検討を依頼していたのでこの検討結果を大塚武彦氏より発表していただき、各社の意見を交換した。スラグ長さについても、見直しをすることとし、各社の実績を出してもらうことになった。仕上圧延機放出速度基準については、幹事案の説明がなされ、意見の交換が行われた。

第5回分科会 開催日：10月24日。出席者：吉田主査代理、他17名。

会議事項

12月の答申に対するタイミングを考えて、今回で一通り検討すべき点について提示しつくして試算を始めるため、前回からの懸案事項に残っている見直すべき項目を加えて、次の諸点について打ち合せを行なった。

- 1 加熱炉能力算定に使うスラブ厚さの検討
- 2 加熱炉能力算定に使うスラブ長さの検討
- 3 仕上圧延機放出速度基準の検討
- 4 緩ピッチ係数の見直しについて
- 5 加熱炉 $n-1$ 基の期間の見直しについて
- 6 簡便式について
- 7 能力試算について

条 鋼 設 備 部 会

第1回部会 開催日：11月6日。出席者：松永幹事、他4名。

会議事項

1. 稼働体制について

稼働体制は、大形、中小形、線材の各設備分科会で、基本的考え方、使用記号などが異なっていたが、今回その統一を行ない、設備能力算定方式のためのみにとどまらず、共同研究会各分科会の議題の1つとして取り上げられている工場操業調査表でも、できるだけ、この分類に従うことになった。

2. 各設備ごとの係数の統一

各係数を、設備に関するもの、材料に関するもの、および操業に関するものに区分し、原則として、設備に関するものは、Capital letter を用い、他は分科会独自のものもあるため、各分科会に一任することとした。

3. 簡略式について

簡略式については、作成した部会の例を参考に、引き続き検討は行なうが、今回の通産省への答申では、期限の制限もあり記載しないことにした。

大 形 設 備 分 科 会

第2回分科会 開催日：9月19日。出席者：小林幹事代理、他14名。

会議事項

1. 設備能力算定式の見直し

前回分科会で、各係数につき実績と比較し、改正する必要があるものについて検討した。今回は、それら係数についてアンケート方式により、要望値を提出していただいたので、その集約結果をもとに、討議された。

検討の結果、若干の係数を残して、大部分が決定された。

2. 大形形鋼に発生する疵名称の統一について

各種圧延鋼材に発生する疵は、各社、各事業所により、同一疵でも呼称を異にしている。過日開かれた、共同研究会幹事会において、これら疵名称について、小委員会を設け、統一することが決議された。

それに基づき、各委員に疵写真の提出をお願いしたが、提出された疵写真をもとに、設備分科会の席を借りて検討された。不足した疵写真については、次回までに用意できる会社より提出いただくことになった。

第3回分科会 開催日：10月17日。出席者：小林幹事代理、他20名。

会議事項

1. 第3回圧延設備総合部会報告

過日開かれた圧延設備総合部会の議事概要につき、報告があつた。

2. 設備能力算定式の見直し

前回の分科会で、検討を残された、有効厚み係数 C_1 の適用区分、孔型通過時間に関する係数 C_2 、およびアイドルタイムに関する係数 C_5 について、各委員の提出した実績をもとに検討し、今回の見直しを完了した。

3. 大形形鋼に発生する疵名称の統一について

前回分科会で、不足していた疵写真を各委員より提出補足し、各疵写真につき、最も良好な写真を1点ずつ選択した。

中 小 形 設 備 分 科 会

第6回分科会 開催日：10月27日。出席者：中西主査 他16名。

会議事項

1. 第3回圧延設備総合部会報告
過日開催された、圧延設備総合部会の議事概要につき報告があつた。
2. 実働率 α の検討
前回分科会で検討を残された実働率 α について、それ以後、担当委員より、アンケートが配布されていたが、その集約結果をもとに、討議され決定がなされた。
3. 設備能力算定式全原稿の検討
従来より、当分科会は、各設備ごとに担当会社を決め能力算定式の見直しを行なつてきたが、上記実働率 α を含め全見直しが完了したので、担当会社の作成した原稿の最終検討が行なわれ、見直しは完了した。
4. 中小形疵名称の統一について
前回分科会で、各社で分担した疵の写真について、各社より提出があり、検討された。

標準化委員会

特殊鋼分科会

第13回分科会 開催日：11月7日。出席者：西主査、他13名。

会議事項

1. 現行JIS見直しについて

機械構造用炭素鋼々材、焼入性を保証した構造用鋼々材、Ni Cr 鋼々材、Ni Cr Mo 鋼々材、Cr 鋼々材、Cr Mo 鋼々材、Al Cr Mo 鋼々材、炭素工具鋼、合金工具鋼、中空鋼、硫黄快削鋼、高炭素 Cr 軸受鋼、ピアノ線材、鋼の浸炭硬化層深さ測定方法、鋼の非金属介在物の顕微鏡試験方法、鋼の焼入性試験方法、その他共通事項について検討し、次回回答案を検討することになった。

2. 日本工業規格(案)鉄鋼の焼ならしおよび焼なまし加工について西主査より中間報告があつた。

3. 特殊鋼規格分類体系について事務局より必要性、考え方、アンケート結果、今後の進め方について説明があり次回さらに討議することになった。

4. ISOTC/17WG4 のパネ鋼について報告があつた。

ぶりき分科会

第1回分科会 開催日：11月13日。出席者：安藤主査、他21名。

会議事項

JIS ぶりき板の見直しについて、安藤主査、工業技術院の水野氏、および鉄鋼協会の吉田部長から、それぞれ挨拶および説明があつたのち議事に入った。討議をしやすいように、幹事会社より原案が示された。また、八幡製鉄作成のぶりき規格比較表が配布され、これらをもとにして審議が行なわれた。適用範囲、原板関係、機械的性質、すず付着量、試料採取法、寸法、重量、形状、などの項目について、それらを取り上げるべきかどうかの討議がなされた。なお、原案その他について、各社のコメントを提出することになった。

JIS 低温圧力容器鋼材規格分科会

第1回分科会 開催日：11月13日。出席者：金沢武主査、他22名。

会議事項

1. 分科会委員の確認

分科会のメンバーの確認を行なつた。

2. 経過説明

工業技術院水野氏より、前回の原案作成時より年月も経たので、工技院へ再答申を依頼する旨の経過説明が行なわれた。

3. メーカー原案の提示

仁木(川鉄)幹事より規定鋼種区分案が示された。

4. 一般的討議

当規格全般に関し討議され、対象は鋼板しかないので当分科会名も鋼板規格分科会とする。

3 $\frac{1}{2}$ Ni 以外 2 $\frac{1}{2}$ Ni も熱間加工のために考慮する。調質高張力鋼は規格化を見送るなどを申しあわせた。

5. 次回

衝撃値の適用思想について討議することになった。

JIS 鋼材の検査通則原案分科会

第1回分科会 開催日：11月14日。出席者：河田主査他27名。

会議事項

この規格は10年前改正されたままになっており、新材料の出現、技術の進歩などで不都合な点が多々生じてきたので工業技術院より鉄鋼協会へ改正原案の作成が依頼された。

各委員より現規格の問題点の指摘があり以下の方針で改正原案を作成することになった。

1. 現規格通り化学成分、機械的性質のみを規定する。

2. 製品分析の規格の制定に伴い化学成分の規定の変更を行なう。

3. 機械試験の試験片とり方、鋼種分類の見直しを行なう。

以上の基本方針により幹事会社で次回までに原案を作成することになった。

鋼のサルファプリント試験方法規格原案分科会

第1回分科会 開催日：10月13日。出席者：小犬丸主査、他14名。

会議事項

工業技術院からの委託を受け、標記工業標準原案の作成を行なうことになり、第1回の分科会を開催した。

原案はJISのマクロ試験方法に準じてとりまとめるがマクロ試験と同様、標準的な写真だけを載せ合格判定などに使えるように級別化することはやめる。

また適用範囲は、一応全鋼種を対称とし、Sの偏析をみることを主体として標準写真を分類するが、現在問題になっているような製品でその特徴的なものを載せたい。

試験方法としては、素案を作るための参考として各社での実施状況の聴取を行なつた。

鉄鋼基礎共同研究会

溶鋼溶滓部会運営委員会

第5回委員会 開催日：10月3日。出席者：斉藤恒三郎部会長、他18名。

会議事項

1. 昭和43年度科学技術庁委託研究の件

部会長より昭和43年度は名古屋地区を中心にプロジェクト研究を進めること。また予算の関係で昭和44年度ま

でこの一連のプロジェクト研究が続行されることを報告された。

坂尾委員から昭和43年度は拡散を主体に行ないたい旨報告、またこの実施には第3分科会を設立し、主査を井上(名大)教授に委嘱することになった。

2. 共通サンプルの件

荻野委員から神戸製鋼の好意により、共通サンプル溶製の目途がついた旨報告あり、共通サンプルの配分に関し各委員にアンケートを行なうことになった。

純鉄グループ

第2回会合 開催日：9月28日；出席者：草川幹事，他17名。
会議事項

次の3件の研究発表があり、活潑な質疑応答が行なわれた。

- 1 「静水圧による自由転位の導入と鉄の降伏」 日立製作所中央研究所 矢島正義氏，石井満氏
- 2 「純鉄の室温における硬化過程について」 東大橋口隆吉氏，井形直弘氏，瀬戸佐知生氏
- 3 「低温において変形された純鉄単結晶の転位配列」 防衛大 山下忠美氏

なお、純鉄グループとしては、同一ロッドの原料純鉄より出発して、原料鉄を各委員に分配し、研究調査を分担し、その性質のバラツキの原因を検討すると共に各性質の関連性をも検討することなど、今後の研究方針に対する討議が行なわれた

新入会員氏名

(昭和42年9月1日～9月30日)

正 会 員	
飯田 宏	八幡製鉄(株)戸畑
佐々木友二	〃 〃
新飼 昭男	〃 〃
能美 征一	〃 〃
相田 晴美	〃 東研
牧 聡	川崎製鉄(株)東京
米田 崇夫	〃 〃
中田 謹司	〃 千葉
中村 隆洋	住友金属工業(株)和歌山
山崎 勲	〃 〃
宇野 誠一	日本特殊鋼(株)本社
玉利 修	〃 〃
大前 春樹	日新製鋼(株)呉

福島 紀	富士製鉄(株)中研
宮本 剛汎	(株)日本製鋼所室蘭
広瀬 和夫	(株)神戸製鋼所高砂
遠藤 俊彦	日本冶金工業(株)川崎
山崎 典良	吾嬬精機鋼業(株)
金井 昭典	
田村 金司	三星金属工業(株)
菊竹 乙彦	日本砂鉄鋼業(株)
鈴木 康三	(株)伊藤製鉄所
古沢 恒夫	日本エンジニアリング(株)
瀬戸 健三	(株)小松製作所
松本 和紀	月星工業(株)呉
仁平 宣弘	東京都立工業奨励館
佐藤 敬	東北大学金材研

学 生 会 員	
難波 明彦	東京大学大学院工学系
塩谷 和宏	富山大学工学部
広瀬 幸雄	大阪府立大学大学院工学系
高田 仁輔	鉄鋼短期大学
外 国 会 員	
Frank W. Luerssen	(U.S.A.)
Franz Oeters	(West Germany)
United States	(U.S.A.)
Department of the Interior	
M.B. Wylie	(U.S.A.)
Sven Eketorp	(Sweden)

(昭和42年10月1日～10月31日)

維 持 会 員	
イゲタ大径鋼管(株)	
イゲタ鋼板(株)	
正 会 員	
遠藤 義一	川崎製鉄(株)西宮
嘉納 徳彦	〃 〃
黒崎 雅夫	〃 〃
島田 滋矩	〃 〃
岩崎 利雄	〃 千葉
栗山 堯	〃 〃
中村 勝	〃 〃
新庄 豊	〃 技研
木村 一夫	富士製鉄(株)名古屋
茶野 善作	〃 〃
林 恒彦	〃 〃
神居 詮正	〃 室蘭
永見晋太郎	住友金属工業(株)和歌山
福田 実	〃 中技研
佐藤 憲一	〃 小倉

亀田 純一	八幡製鉄(株)堺
春田 益男	〃 〃
合田 純一	〃 技研
小柳 弥夫	日本鋼管(株)川崎
田山 勝彦	〃 技研
福田裕三郎	(株)日立製作所日立
古屋 公二	松下電器産業(株)
山口 一彦	(株)浜田組
黒須 隆夫	東洋刃物(株)仙台
丸山 友幸	三星金属工業(株)
木佐 昌義	(株)渡製鋼所
藤本 英臣	富士シャフト(株)
八代 勇雄	(株)大谷製鋼所
内田 貞夫	(株)山本製作所
石原日出夫	三石高級耐火工業(株)
青木 皓	秋山精鋼(株)
本田 武石	新潟県工業技術センター
落合 三雄	古河鋳業(株)
桑原 正義	スター精密(株)

西野 武俊	磯部鉄工(株)
渋谷 正雄	品川白煉瓦(株)
高橋 浩一	興国金属工業(株)
宇崎 松寿	田辺化工機(株)
福田 豊稔	八幡鋼管(株)
浅野 三郎	特殊製鋼(株)技研
平田 洋八	日本ステンレス(株)直江津
山下 忠美	防衛大学校
熊谷真一郎	東北大学金属材料研究所
学 生 会 員	
林 純生	千葉工業大学
泉 辰昌	大阪府立大学工学部
中村 敬和	〃
木村 英二	京都大学工学部
平泉 元	職業訓練大学鍛造科
外 国 会 員	
Univ. of California	(U.S.A.)
Lee F. Weitzenkorn	(U.S.A.)
郭 炎 士	(中華民國)

最近刊行物・技術講座テキスト案内

書名	刊行年月	判型	ページ数	定価(円)
刊行物				
英国鉄鋼業の現況 総括編 (訪英鉄鋼視察団報告書)	昭39-9	B 5	63	会 600円(〒65) 非 900円
英国鉄鋼業の現況 各論編 (訪英鉄鋼視察団報告書)	昭39-12	B 5	154	会1200円(〒200) 非1800円
鋼の脱酸の物理化学的原理	昭39-12	B 5	98	会 900円(〒75) 非1300円
計測部会報告書 (高炉炉頂ガス分析, 高炉装入原料の秤量)	昭14-5	B 5	70	会 600円(送料本) 非 800円(会負担)
高炉製鉄法の理論	昭41-7	B 5	392	会2000円 非2500円
各製鉄所における製鉄設備の展望	昭41-10	B 5	150	500円
世界鉄鉱資源要覧(限定版)	昭41.11.25	B 4 変形判	140 (地図16)	会 6000円 非 8000円
ベネルックスおよび西独鉄鋼業の概況 (訪独ベネルックス使節団報告書)	昭42. 2.28	B 5	172	会 1500円 非 2000円
JIS 鋼材規格講習会テキスト	昭42. 2. 2	B 5	199	1000円
技術講座テキスト				
第3回 将来の製鉄法について*	昭41. 5.30	B 5		200円
第4回 Nb 添加高張力について 合金元素選定の考え方について**	昭41. 7.18	B 5 B 5		200円 200円
第5回 鉄鋼の強度の転位論 鉄鋼中の点欠陥 転位論入門	昭41. 9.19	B 5 B 5 B 5		200円 200円 200円
第6回 合金元素選定の考え方について注1) 将来の製鉄法について注2)	昭41.10.20	B 5 B 5		200円 200円
第8回 金属腐食の機構 耐候性鋼材 鉄鋼の有害微量元素 快削鋼について(S, Pb)	昭42. 1.27	B 5 B 5 B 5 B 5		250円 250円 250円 250円
第9回 鋼の熱間加工総論 熱間圧延における変形と圧力分布 変形抵抗について 変形能について	昭42. 5.29	B 5 B 5 B 5 B 5		1000円
第10回 鉄鋼製錬の化学工学 化学工学入門 化学工学の鉄鋼製錬への導入 鉄鋼製錬プロセスの理論的解析	昭42. 8.21	B 5 B 5 B 5 B 5		1000円
第11回 非定常条件下における鋼のクリープおよび 高温引張特性について 鋼のクリープ特性について 鋼の熱間ねじり特性について 鋼の熱間脆性について	昭42.11.16	B 5 B 5 B 5 B 5		1000円

注1) 第4回の*印内容と同じ, 注2) 第3回の*印内容と同じ

申込先 東京都千代田区大手町1-5 経団連会館3階 日本鉄鋼協会 編集課
申込方法 書名, 送付先を名記, 代金ならびに送料を同封のうえ, 現金書留にてお申し込み下さい。

“世界鉄鉱資源要覧” (限定版) 頒布のお知らせ

科学技術庁資源調査会鉄鋼部会編さん 本会発行

わが国鉄鋼業が多大の成長をとげている現在、その将来の発展の鍵は優秀な資源の供給源を得ることにあります。科学技術庁資源調査会鉄鋼部会がわが国で始めてこの問題に取り組み「世界鉄鉱資源要覧」をまとめ、本会で刊行いたしました。

本書こそは鉄鋼界待望の書であり、具体的内容を豊富に網羅している点で世界的にも類まれな画期的資料であります。

下記内容をご参照の上、本書を研究・調査に広くご活用下さるようご案内申し上げます。

主要目次	1. 鉄鉱資源一覧表	大きさ B4変形判 (24.5cm×29cm) 頁数 140頁 地図 16葉 装幀 本クロス上製本 定価 6000円(会員) 8000円(非会員) 千 本会負担
	2. 国連方式による鉄鉱床分類法の説明	
	3. 鉱石輸送距離表と港湾概況表	
	4. 鉄鉱資源分布図	

○申込方法 現金書留にて①送金目的②注文冊数③送金額④氏名⑤送付先住所を明記してお申し込み下さい。代金受領後送本致します。
なお送付途中破損のおそれがありますので、東京都内および近郊の方はできるかぎり本会までお越し下さい。

○申込先 東京都千代田区大手町 1-5 経団連会館 3階
(社) 日本鉄鋼協会 編集課

訪独ベネルックス使節団報告書

“ベネルックスおよび西独鉄鋼業の概況” 刊行について

本会が西ドイツ、ベネルックスに派遣いたしました、鉄鋼使節団は帰国後数回にわたり会合し、報告書のとりまとめ作業を進めてまいりましたが、2月下旬に発行されました。

本報告書は技術を中心に、鉄鋼業の再編成問題にもふれ、転換を迫られている欧州鉄鋼業の最近の動向を解明しております。購読を希望される方は、下記をご覧のうえお申し込み下さい。

記

- | | | |
|---------|---------------------------------------|-------------------|
| 1. 書名 | ベネルックスおよび西独鉄鋼業の概況 | |
| 2. 内容 | 第1篇 | ベネルックスおよび西独鉄鋼業の概況 |
| | 第1章 | エネルギー |
| | 第2章 | 原料 |
| | 第3章 | 輸送 |
| | 第4章 | 製鉄 |
| | 第5章 | 製鋼 |
| | 第6章 | 鋼板 |
| | 第7章 | 条鋼 |
| | 第8章 | 鋼管 |
| | 第9章 | 鑄鍛鋼 |
| | 第10章 | 特殊鋼 |
| | 第11章 | 研究 |
| | 第12章 | 自動制御 |
| | 第13章 | 規格 |
| | 第14章 | 教育 |
| | 第15章 | 労働安全 |
| | 第16章 | 再編成 |
| | 第2篇 | 訪問記 |
| | 第1章 | 諸研究機関・研究所 |
| | 第2章 | 諸工場 |
| | 第3篇 | 座談会 |
| 3. 価格 | 会員 1500円, 非会員 2000円 (送料本会負担) | |
| 4. 申込方法 | 書名および送付先を明記のうえ、代金を添え現金書留にてお申し込み下さい。 | |
| 5. 申込先 | 東京都千代田区大手町 1-5 経団連会館 3階
日本鉄鋼協会 編集課 | |